



令和5年9月6日
第3号
秦野市立西中学校
秦野市柳町 2-5-1 Tel.88-0022

「平和」をつないでいくために

～ 広島平和記念式典での「平和への誓い」をうけて ～

この夏は、「災害級の暑さ」や「地球沸騰化」など、とにかく身体にこたえるような異常高温を象徴するフレーズを嫌というほど耳にした夏休みでした。何はともあれ、8月29日（火）2学期がスタートしました。

始業式では、今年で78回目の原爆の日を迎えた広島市の平和記念式典で、広島市の小学6年生が読み上げた「平和への誓い」について、子どもたちに話をしました。

以下、始業式で子どもたちに話した内容です。

『夏休み真っ只中の8月6日朝、テレビでは今年で被爆から78年の原爆の日を迎えた広島市の平和記念式典で、「平和への誓い」を堂々と読み上げる広島市の小学6年生の姿が映し出されていました。ここにその全文があります。聞いた人もいるかも知れませんが、一部抜粋して読み上げますので、ぜひ自分の事として聞いてください。』

みなさんにとって「平和」とは何ですか。

争いや戦争がないこと。

差別をせず、違いを認め合うこと。

悪口を言ったり、けんかをしたりせず、みんなが笑顔になれること。

身近なところにも、たくさんの平和があります。

昭和20年（1945年）8月6日午前8時15分。

耳をさくような爆音、肌が焼けるほどの熱。…

と、この後、原爆が投下された悲惨な街の様子や人々の様子が語られています。そして「平和への誓い」は次のように続きます。

あれから78年が経ちました。

今の広島は緑豊かで笑顔あふれるまちとなりました。

「生き残ってくれてありがとう」

命をつないでくれたからこそ、今、私たちは生きています。

私たちにもできることがあります。

自分の思いを伝える前に、相手の気持ちを考えること。

友だちのよいところを見つけること。

みんなの笑顔のために自分の力を使うこと。

今、平和への思いを一つにするときです。

被爆者の思いを自分事として受け止め、自分の言葉で伝えていきます。

身近にある平和をつないでいくために、一人一人が行動していきます。

誰もが平和だと思える未来を、広島に生きる私たちがつくっていきます。

と力強く「平和への誓い」が締めくくられていました。

戦争のない平和な世界は、私たちが目指すべき理想の世界であることに違いはありません。しかし、同時に命をつないでもらった私たちにとって、まず自分の身のまわりの平和について真剣に考えることが大切だと語りかけてくれています。これは被爆国であるとか広島や長崎のような被害を受けたとかは関係ありません。まわりの人に感謝をすること、身近にある小さな平和を大切にする、それを一つ一つ積み上げていくことが、更に大きな平和につながっていくのだと思います。繰り返しになりますが、これが命をつないでもらった私たちが、次に命をつないでいく人たちに伝えなければならない大切な使命ではないでしょうか。

西中ではこの夏休みに「親子ひろしま訪問団」に参加してくれた人もいます。ぜひ皆さんには今回の広島市の2人の小学生によるメッセージを自分事として捉え、今日から一つでも多くの小さな平和を築いてほしいと願っています。』

1学期の始業式や入学式でもお話ししましたが、今あることを当たり前だと思わず、いつも感謝の気持ちをもってほしいという願いにも通じるころがあります。私も含め、今こうして命をつないでもらっていることにはちゃんと意味があり、それをかみしめながら、一日一日を大切に生きていかなければもったいないなあ…と感じました。

「平和」と聞くと、ちょっと構えてしまいがちですが、まずは身近にある「平和」をつないでいくために、自分には何ができるのかを考えるきっかけにしてくれると嬉しいです。

ぜひ、ご家庭でも話題にしてみてください。

